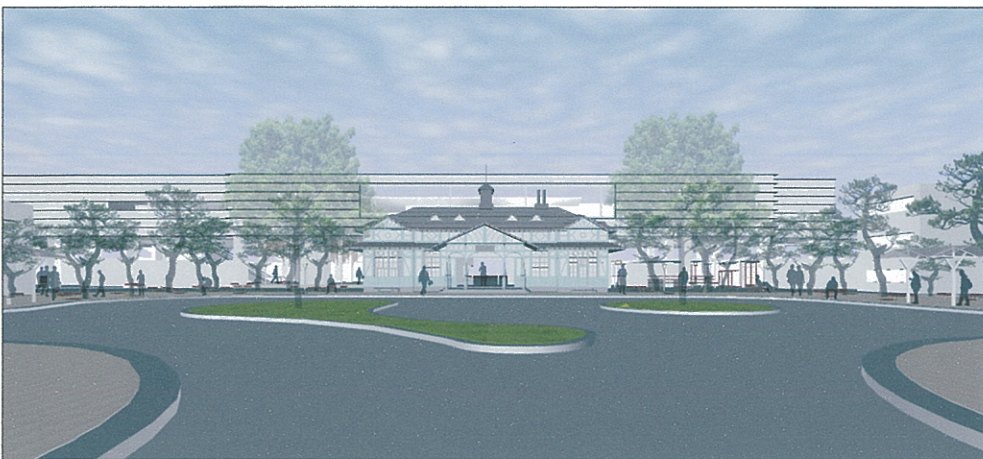
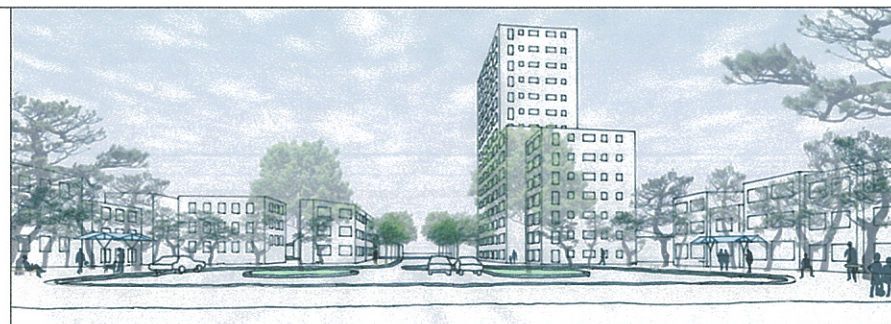




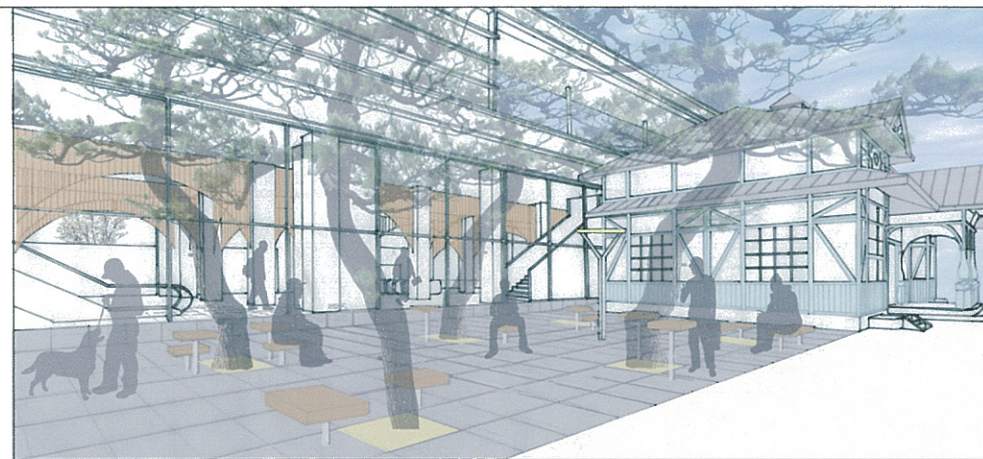
○西側正面

旧駅舎の両翼には「駅の森」とバス・タクシー用シェルターを対称的に配置することで、駅前線からの象徴的な景観が形成に配慮します。さらに「駅の森」の木々は高架駅舎の大きなボリューム感や高架テナント下のファサードを和らげるため、旧駅舎の歴史的価値を再生させる駅前広場空間が実現できます。



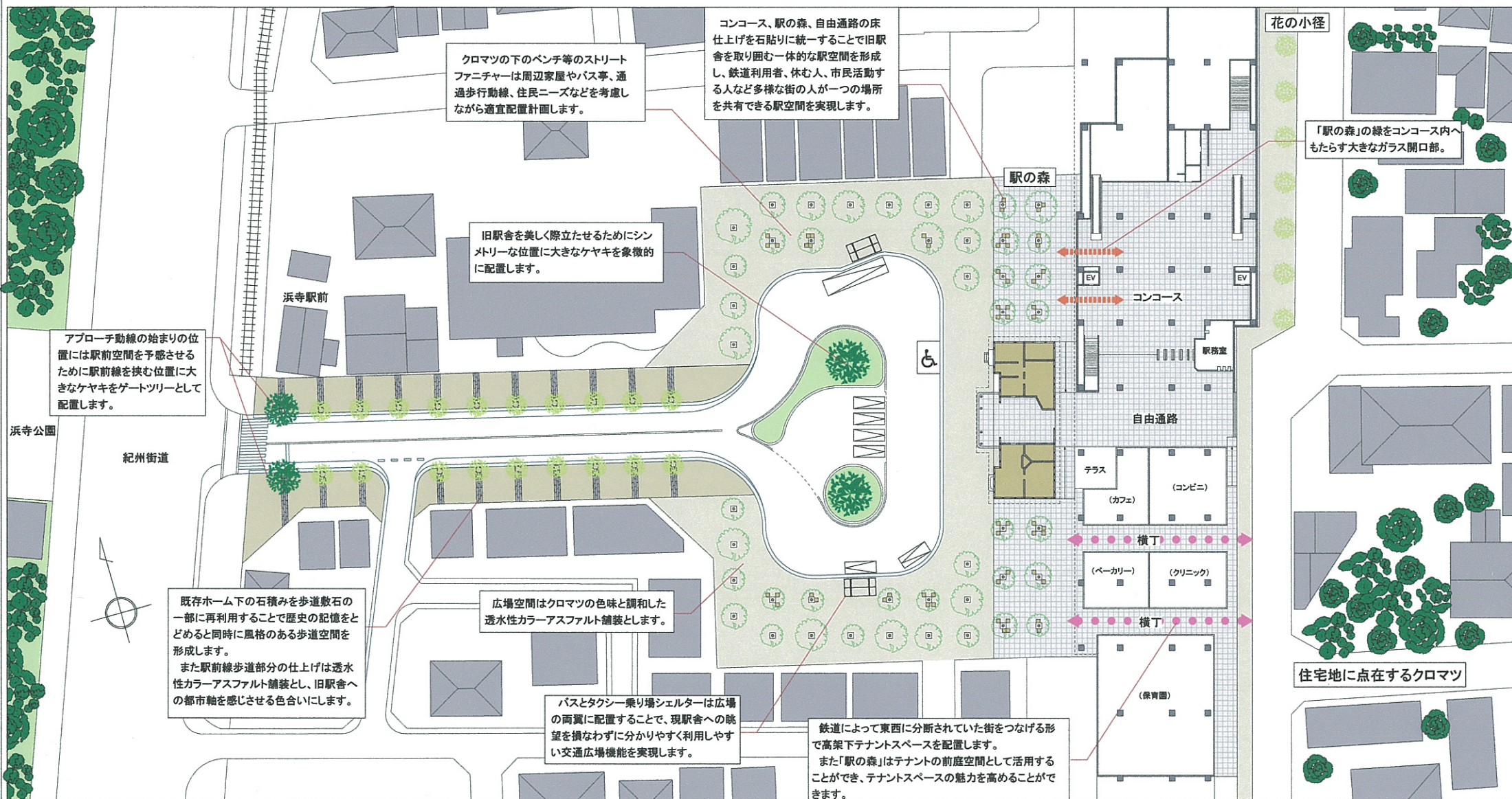
○旧駅舎から浜寺公園への象徴的な都市軸の形成

駅前ロータリーの両翼にはクロマツからなる公園のような「駅の森」を形成し、シンボルツリーである大きなケヤキから真っ直ぐにコブシの街路樹を連ねることで、緑に取り囲まれた駅前広場空間を実現すると共に駅と浜寺公園を結ぶ象徴的な都市軸を作り出します。
駅に降り立った瞬間、目に飛び込んでくる緑が連なる美しい景観の創造は地域アイデンティティの創出と地域住環境の質の向上を図ることが可能になります。



○多様な街の人が共有する「駅の森」

「駅の森」は旧駅舎と高架駅コンコースの室内空間に対して木々の緑溢れる窓外の風景を提供します。
また駅の森では鉄道利用者、旧駅舎で市民活動する人、ベンチで佇む人など色々な街の人が時間と場所を共有できる駅空間を実現します。



○歴史文化的な風韻が感じられる街

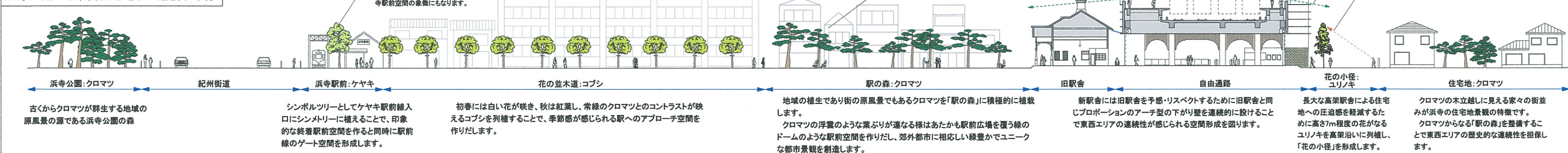
都心にはない「ゆとり」や「歴史」が感じられる風韻は郊外都市・浜寺公園エリアの戦前から育まれてきた地域文化の特徴だと考えられます。クロマツからなる森が駅前に広がる様はこの歴史文化的な風韻をより強調するものであり、同時に浜寺公園エリアの原風景の新しい創出を目指したものです。また唯一無二のこの特徴的な駅前空間は地域イメージの向上にも大きく寄与するものだと考えます。



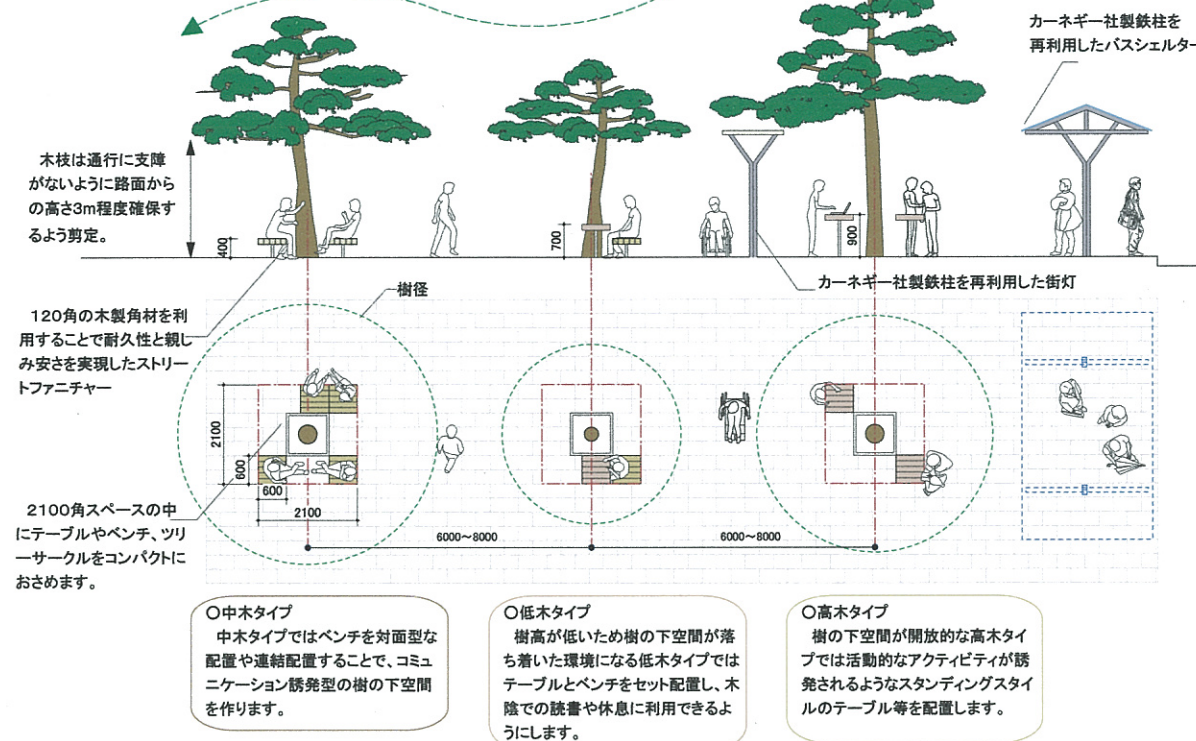
○広場のない低層住宅地スケールに則した東側駅前空間

高架駅舎の建物ボリュームを上下に分節することで閑静な低層戸建て住宅地が展開する駅東側エリアの景観に則した駅前空間を実現します。
1階外壁にはレンガタイルを使用し、また花のなるユリノキを街路樹として整備することで高架沿いに「花の小径」を形成し、より良い住環境を創造します。

浜寺公園から東側住宅地まで連続する緑



クロマツの葉が緑の駅前ドームを形成



浜寺公園エリアに馴染みの深いクロマツの樹形の特徴を活かした「駅の森空間」を作ります。

〇緑の自然ドーム

水平方向に枝葉が伸びるクロマツを面的に列植することで、駅前広場全体が葉に大きく覆われたような緑の自然ドームを形成することで落ち着いた憩いやすい広場空間を形成します。

〇樹形に合った佇み空間

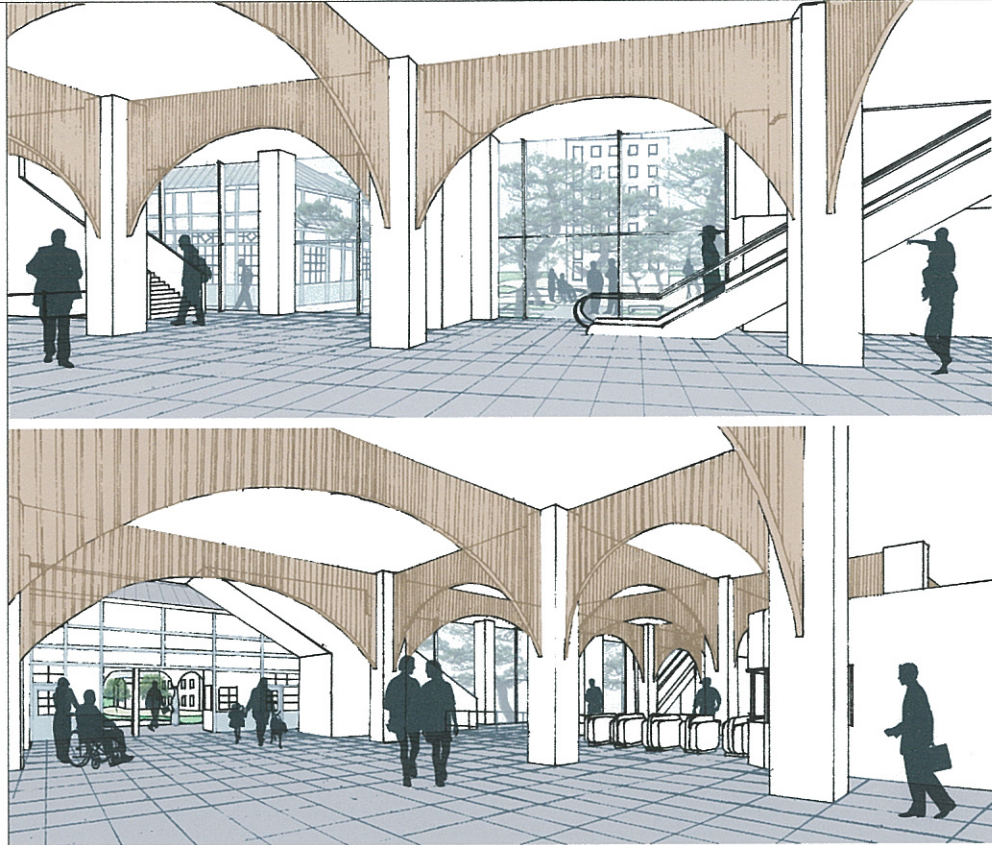
クロマツの樹高や樹径に合ったアクティビティが展開できるファニチャー計画を実施します。

〇モジュール化

クロマツの植樹間隔やファニチャー配置、舗装をモジュール化することでメンテナンスや将来的な配置の変更などを容易に実現できます。

〇ホーム鉄柱の現代的な再利用

旧駅舎のカーネギー社製ホーム鉄柱を街灯やバスシェルターの柱梁材に再利用します。ホーム鉄柱に新たな鉄骨材を付加することで構造上の安全性を確保しつつ、さらに現代的なデザインの照明器具やガラス屋根などを付加することで歴史的な意匠性を保ちながら新しいデザインのストリートファニチャーとして再生させます。



〇降り立った瞬間、浜寺らしさを感じる駅

1階駅コンコース西側には大きなガラス開口部を設けることで、旧駅舎と「駅の森」を見ることができ、駅に降り立った瞬間、浜寺らしさを感じられるコンコース空間を実現します。

☆駅構内の内部仕上げ

①コンコース・自由通路

壁：磁器質タイル貼り
天井：軽鉄下地（耐震補強仕様）石膏ボード二重貼の上吹付塗装
床：石貼り
木製縦ルーバーアーチ：タモ 集成材 オイルステイン

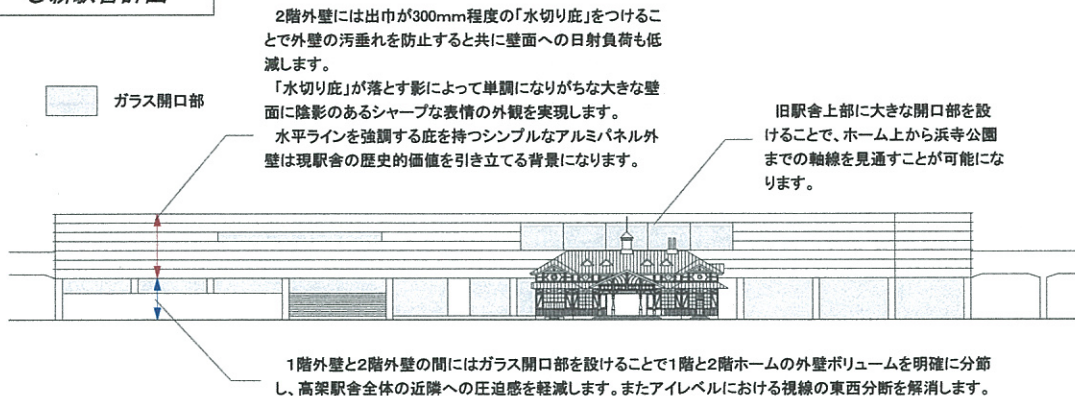
②トイレ

壁：磁器質タイル貼り
天井：軽鉄下地（耐震補強仕様）石膏ボード二重貼の上磁器質タイル貼り
床：磁器質タイル貼り
建具・トイレブース：メラミン化粧板貼り

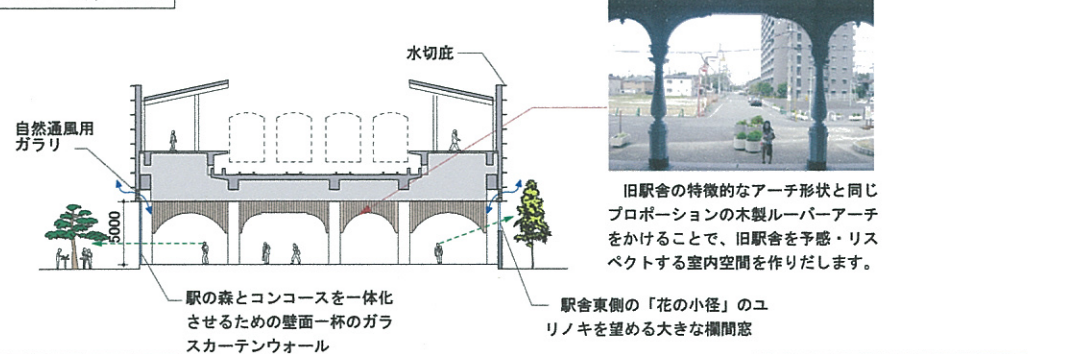
〇駅を街へ、街を駅へ結ぶ自由通路

高架駅舎内の空間には旧駅舎のエントランスアーチをモチーフにした縦ルーバーのアーチをラッチ内外と自由通路に連続した形で設置することで、屋内外への空間の連続感を演出します。東西エリアの接続機能だけでなく駅を街へ開放する自由通路空間を実現します。

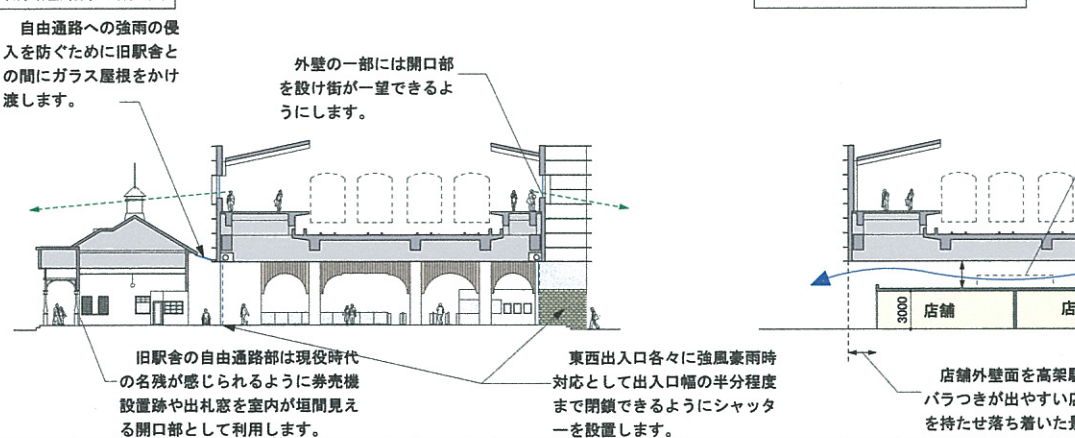
〇新駅舎計画



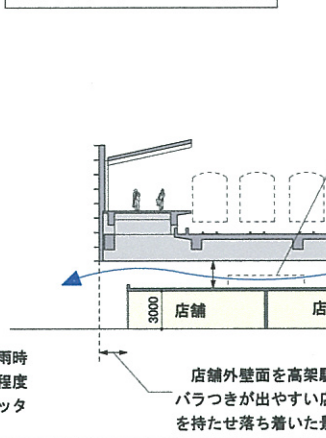
コンコース部 断面図



自由通路部 断面図



高架下テナントスペース 断面図



〇東側横丁入口

郊外駅前でも事業的に成立しやすい20～60坪程度の比較的小さいテナントミックスは、小さいながらも親しみ安暖かな「横丁」商業空間を実現します。

〇基本的な考え方～新しい街角風景の創造

駅舎の高架化と駅前広場の整備が新しく実現されることに伴い、駅を中心としたエリアに浜寺らしい多様な街角の風景を新しく創造していくことが、市民が豊かな都市生活を実現していくことにとって重要だと考えます。その新しく創造される街角風景の主な6点を下記します。

- ①市民の活用スペースとしての機能が期待される旧駅舎の室内から見える緑豊かな窓外景色の創造
- ②駅舎と浜寺公園を結ぶ都市的スケールの新しい景観軸の創造
- ③ホームレベルから街並み全体を見渡せる新しい眺望の創造
- ④駅コンコースから垣間見える旧駅舎と駅の森の木々が織りなす駅内シーンの創造
- ⑤広場がない東側低層住宅地のスケールに合った駅前風景の創造
- ⑥100年後においても郊外住宅地の玄関口の魅力を保持しつづけることが可能な駅構内及び駅前空間の創造



〇西側横丁入口

「駅の森」はテナントスペースの前庭空間として活用することが可能です。

〇横丁

〇高架駅舎の特性を活かしたテナント空間の創造

街の分断を解消する高架駅舎の特性を活かし、東西を結ぶ形で横丁テナント空間を作ります。昨今、「エキナカ」という街との関わりが少ない形態が多く見受けられますが、街と共生・発展していく開かれた高架下テナント空間を浜寺公園では実現したいと考えます。「横丁」を設けることで飲食や医療、ペーカリー⇄保育園、コンビニやカフェなどといった対面型のテナントミックスを図ることができ、さらに駅前広場空間との運動により時間消費型の商空間を形成することが可能になります。

〇計画にあたっての考え方

1. 浜寺らしさに配慮したデザイン

駅を中心として利用者の心象風景に残る街角のワンシーンを随所に設けることが新しい時代に向けた浜寺らしい景観の創造であると考えます。

2. 文化財的価値の継承に配慮したデザイン

旧駅舎は文化財である一方で今後も積極的な活用が期待される現役の街の資源財です。従って創建時の姿に戻すよう最大限の努力が払われるべきですが、同時に多数の市民の利用に耐えるように仕上や構造などについては最新の技術や素材を積極的に活用すべきであると考えます。積極的に文化財を市民が活用できるように復元することが地域の文化継承にとって最も重要だと考えます。

3. 人の交流や住民の活用を意識したデザイン

閑散となりがちな郊外の駅前広場空間に現駅舎を取り囲む形の外構計画を実施することで、自然と人が佇みたくなる居心地のよい街角空間を創造することが人の交流を促すことに対して最も重要であると考えます。

4. コストに配慮したデザイン

建材に使用される素材自身の耐久性が大幅に向上している一方で、汚れや清掃に関するメンテナンスに費用を要するケースが多くなっています。外壁に関しては層状に底を設けることは意匠上な理由だけでなく汚れ垂れを防止する効果を狙っています。また経年変化が汚れではなく味わいとして感じられるように舗装床材やサインボードの礎石に石などの自然系素材を多用することでランニング費用の低減を図ります。

5. 市民ニーズの取り入れ方

デザインにおける市民参加においては、個別に進行する検討課題を一つにまとめる大きなプラットフォームが必要になります。大きな建築模型を使って目に見える形でワークショップなどを適宜開きつつ、みんなで議論しながら全体の調和、意見調整を図られる場を設けることが大切だと考えます。

〇概算事業費（全て税込金額）

〇概算事業費（全て税込金額）			金額(円)	単価(円/㎡)
新駅舎	外観	外壁※	123,000,000	50,000
		建具	15,000,000	
		その他	5,000,000	
	内観	内装※	105,000,000	100,000
		建具	1,500,000	
		その他	35,000,000	
	合 計		284,500,000	
駅前交通広場 ・駅前線	駅前線	歩道※	34,000,000	40,000
		車道※	16,250,000	25,000
		その他	12,000,000	
	駅前 交通広場	歩道※	76,000,000	40,000
		車道※	27,500,000	25,000
		その他	75,000,000	
	合 計		240,750,000	